家族、友人離れ 孤独感

「だれもがなりうる病気」

あすを生きる

「福寿あおもり」目指して

第3部・大量飲酒、喫煙の代償⑥ アルコール依存

弘前市の藤代健生病院には、津軽や秋田県北から、アルコール依存症患者が治療のため通う。

病気、身内の死、離婚…予期せぬ人生の転機に直面し、大量飲酒によって現実逃避し続けた結果、心を病んだ人が入院している。依存に陥ったいきさつと今の思いを聞いてみた。

◆……◆

「入院するたびに、失うものがある。家族、兄弟、友人…皆、自分から離れていった」

入院4回目となるN美さん（52）。20代前半で離婚し、息子を養うため、無我夢中で自営業の仕事を続けてきた。

弱い自分を表に出さず、「強い母親」を演じているうちに、心が疲れ、20代半ばから一人で飲酒する時間が増えた。〝甘えられる人〟が周囲に存在せず、自分を心配して声を掛けてくれる人もいなかった。寂しく、酒をあおる日々が続くうちに依存症になり、ため込んだストレスで感情が爆発。心ない言葉を周囲にぶつけると同時に、自己嫌悪に陥った。

「入院はこれで最後にしたい。ちゃんと治して、以前のように一生懸命仕事したい」と切望する。

でも、「退院したらまた孤独感に負けて飲んでしまうかもしれない。先が見えない」

◆……◆

同病院には、10人前後のアルコール依存症者が入院しており、依存症からの回復を目指すアルコール治療プログラム、機能回復訓練が行われている。

5月19日、院内治療プログラムが開かれていた。参加したのは30代から80代までの5人。臨床心理士が、パソコン画面をスクリーンに映して依存症の心理を解説した。▽依存症の人は自身の状態を否認する▽飲酒以外のことはどうでもよくなる▽うつ病を併発し、自殺を考えることもある…。

「もっと深く掘り下げてほしい」と、J夫さん（52）は下を向いて憂鬱（ゆううつ）そうに語った。J夫さんは、飲酒し続けた結果、歩行障害となり、現在は車いすで移動している。酒気帯び運転で摘発された経験もあるという。

「アルコールは本当に恐ろしい」と感想を漏らした元飲食店従業員S恵さん（30）は2回目の入院。もともと酒好きで、毎日、焼酎1・8㍑、ビールジョッキ15杯を飲むなどしていたら、肝臓の状態を示すガンマGTPは一時、1600（基準値50以下）まで上昇した。脳萎縮の影響なのか、時々、記憶が飛び、状況がつかめなくなるという。

「寂しがり屋なのに、人と一緒にいると疲れる性格。現実逃避のため、引きこもって飲んでいた。周りの人は自分から離れ、今は、携帯に電話しても、だれも出てくれない」

◆……◆

「今も自殺を考える時がある」とぽつりと語ったA子さん（62）。30代後半で、夫を病気で失って以降、酒から離れられなくなった。うつ病を併発しているが息子に会うことを目標に治療を受けているという。

同病院名誉院長で、30年以上アルコール依存症の治療に携わってきた坂本隆医師によると最近は、酒に酔って暴力的となる「酒乱型」の患者は減り、静かに大量に飲酒する人が目立つという。同院長は「外来患者は以前より増えており、肝機能障害などの健康被害を訴えたり、生活が破綻している人も少なくない」と説明。だれもが酒を簡単に手に入れられる現在、ちょっとしたきっかけで依存症に陥る可能性があるとした。

N美さんも「診断されていない依存傾向の人、治療に入っていない人は、世間にたくさんいるのではないか」と話した。「人は支えなしでは生きていけない。私たちを『ただの酒飲み』と決めつけ、偏見の目で見ないでほしい。依存症は、だれもがなりうる病気なのだから」

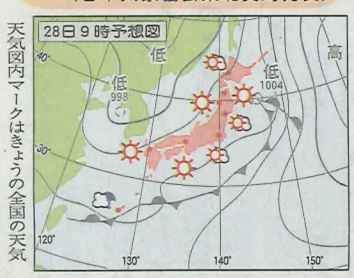
人のつながりが希薄になっている今の社会を見透かすかのような言葉だった。

（菊谷賢）

作業療法士㊧とともに歩行訓練に取り組む男性入院患者。男性は大量飲酒を続けた影響で歩行障害を負い、車いす生活を送っている＝5月下旬、藤代健生病院

きょうの天気

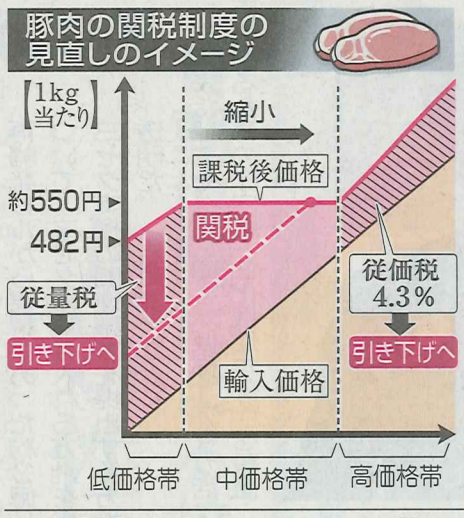
（日本気象協会東北支局発表）



【概況】28日は低気圧や前線が東の海上に遠ざかる。県内は晴れの天気が続き、なかは真夏並みの暑さとなる所がある。

総合共済
青森県火災共済協同組合 ☎017 (777)8111

	6時	9	12	15	18	21	24	最高	最低
津軽	0%			0%			0%		
青森	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	27	13
弘前	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	30	14
五所川原	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	28	12
黒石	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	30	13
深浦	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	24	15
下北	0%			0%			0%		
むつ	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	24	10
三八上北	0%			0%			0%		
八戸	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	22	12
十和田	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	27	11
三沢	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	23	12
野辺地	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	25	12
三戸	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	29	11
札幌	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	25	15
函館	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	23	12
秋田	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	29	16
盛岡	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	29	13
仙台	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	24	14
東京	☀	☀	☀	☂	☀	☀	☀	26	20
名古屋	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	30	16



金融機関から役員

アウガ検討 再建へ外部の目

青森市のアウガを運営する市の第三セクター・青森駅前再開発ビルが、外部の金融機関から役員の招聘（しょうへい）を検討していることが27日、複数の関係者への取材で分かった。現時点で正式要請に至っておらず、実現は流動的だ。経営に外部の目を入れて再建を図ることが狙いとみられるが、市議会関係者らの間に、アウガ支援に前向きな市による市議会の理解を得るための方策では―との見方もある。

【関連記事2面】

三セク関係者によると、三セクは再生計画の進行管理などをする監査役として、金融機関に役員派遣の要請を検討中という。派遣が難しければ、三セクが設置する予定の「経営改善委員会」のメンバーに招き入れることも選択肢に上がっており、6月中に結論を出すもよう。

三セクの負債は総額約32億円。このうち、同金融機関への債務は約5億9千万円で、市への債務約23億8千万円を除くと最も多い。関係者によると、金融機関の人材を入れることで、再生計画の進行を厳しくチェックする役目を担ってもらいたい考えだ。一方で、「市がアウガ支援を続けることに賛成してもらうための議会対策とも受け取られかねない」と慎重な見方を示す関係者もいる。

同金融機関から三セクへの役員派遣は、実現すれば初めて。金融機関の担当者は取材に「アウガの状況を見守っており、コメントは控えている」と述べた。佐々木淳一・市経済部長は「ノーコメント」としている。

（岩崎満）

TPPの日米協議

環太平洋連携協定（TPP）交渉に絡み、日本と米国が農産物の関税や自動車の安全基準など、2国間の懸案事項を話し合うこと。日本は大江博首席交渉官代理、米国はカトラー次席通商代表代行が事務レベル協議のトップを務め、甘利明TPP担当相とフロマン米通商代表が交渉することも多い。日米の経済規模はTPP交渉に参加する12カ国の中で飛び抜けて大きく、日米協議の決着が交渉全体の鍵を握っている。

環太平洋連携協定（TPP）に絡む日米協議の焦点となる豚肉の関税交渉で、日本政府が米国の要求に応じ、最も低い価格帯に適用する関税を現状の4分の1以下に引き下げる方針を固めたことが27日、分かった。具体的な下げ幅は日米で主張に開きがあり、今月29～30日にワシントンで開く事務レベル協議で集中的に議論する。

日米協議では、低価格帯の関税は1㌔当たり最大482円から100円以下にする方向で調整する。国が定めた基準価格と実際の輸入価格の差額を関税で徴収する制度の縮小も検討する。

豚肉の関税を下げれば、海外からの輸入量が大きく増える。国内の養豚農家を守るため、輸入量が急増した場合に関税を引き上げる緊急輸入制限（セーフガード）の発動基準も話し合う。

豚肉の関税制度は、輸入価格帯によって3種類に分かれている。低価格帯は1㌔当たり最大482円を徴収する従量税、高価格帯は一律4・3%徴収する従価税になっている。

低価格帯の従量税の水準をめぐり、日本は1㌔当たり100円前後を訴えるが、米国はオバマ大統領が来日時に50円程度に下げるよう求め、米通商代表部（USTR）幹部は3～5円を要求している。

日本の交渉関係者からは「閣僚協議の内容が大統領に正確に伝わっていないのではないか」といぶかる声が上がった。

大統領の要求を知った米生産者団体は猛反発。オバマ大統領は安い豚肉に課している1㌔当たり482円の関税を50円にすることを求めた。しかし、直前に行われた閣僚協議で、フロマン米通商代表は3～5円程度までの譲歩案を提示したが、残す関税の撤廃を求める姿勢からは軟化したが、残す関税の水準では米政府内でも日本の交渉関係者から「閣僚協議の内容が大統領に正確に伝わっていないのではないか」といぶかる声が上がった。

大統領の要求を知った米生産者団体は猛反発。オバマ大統領は安い豚肉に課している1㌔当たり482円の関税を50円にすることを求めた。しかし、直前に行われた閣僚協議で、フロマン米通商代表は3～5円程度までの譲歩案を提示したが、残す関税の撤廃を求める姿勢からは軟化したが、残す関税の水準では米政府内でも日本の交渉関係者から「閣僚協議の内容が大統領に正確に伝わっていないのではないか」といぶかる声が上がった。

大統領の要求を知った米生産者団体は猛反発。オバマ大統領は安い豚肉に課している1㌔当たり482円の関税を50円にすることを求めた。しかし、直前に行われた閣僚協議で、フロマン米通商代表は3～5円程度までの譲歩案を提示した際、オバマ大統領は安い豚肉に課している1㌔当たり482円の関税を50円にすることを求めた。しかし、直前に行われた閣僚協議で、フロマン米通商代表は3～5円程度までの譲歩案を提示したが、残す関税の撤廃を求める姿勢からは軟化したが、残す関税の水準では米政府内でも日本の交渉関係者から「閣僚協議の内容が大統領に正確に伝わっていないのではないか」といぶかる声が上がった。

大統領の要求を知った米生産者団体は猛反発。